

(令和2年度在宅医療関連講師人材養成事業 訪問看護分野)

「令和2年度訪問看護講師人材養成研修会」受講者

研修会受講後活動についての追跡調査

～看護師～

【結果】

2022年2月

一般社団法人全国訪問看護事業協会

I 調査概要

1. 目的

「令和 2 年度訪問看護講師人材養成研修会」を修了した受講者で、昨年度の研修会受講後活動アンケートにおいて、「計画したが開催しなかった」若しくは「開催・活動しなかった」とご回答された方々に、その後の活動状況について把握することを目的として、追跡調査を行った。

2. 調査対象

令和 2 年度訪問看護講師人材養成研修会の受講者（訪問看護師）のうち、「計画したが開催しなかった」若しくは「開催・活動しなかった」と回答した方 47 名

3. 回収率

74.4%

4. 回答者

35 名

（未回答 12 名については、個別にメールし連絡もしたが、部署を異動している等で連絡がつかなかった）

5. 調査方法

メールに記載されたアンケートのリンク先より、Web にて回答を得た。

6. 調査時期

令和 3 年 11 月 15 日から 12 月 17 日まで

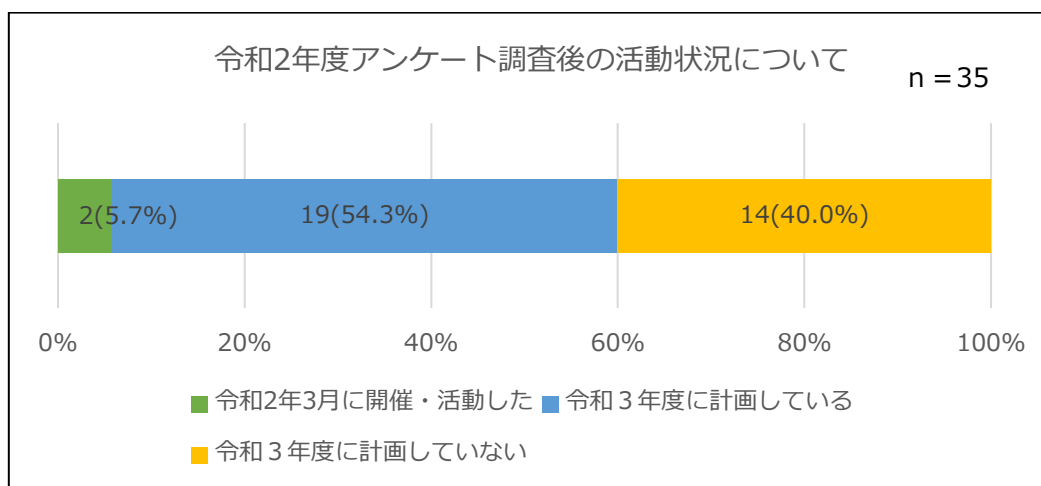
Ⅱ 「訪問看護講師人材養成研修会」受講後の地域での活動について

1. 訪問看護人材の確保や訪問看護の推進・普及に関する研修会等の開催について

1) 令和2年度アンケート調査後（令和3年2月以降）に訪問看護人材確保や訪問看護の推進・普及に関する研修会等の開催または計画、講師として活動したか。

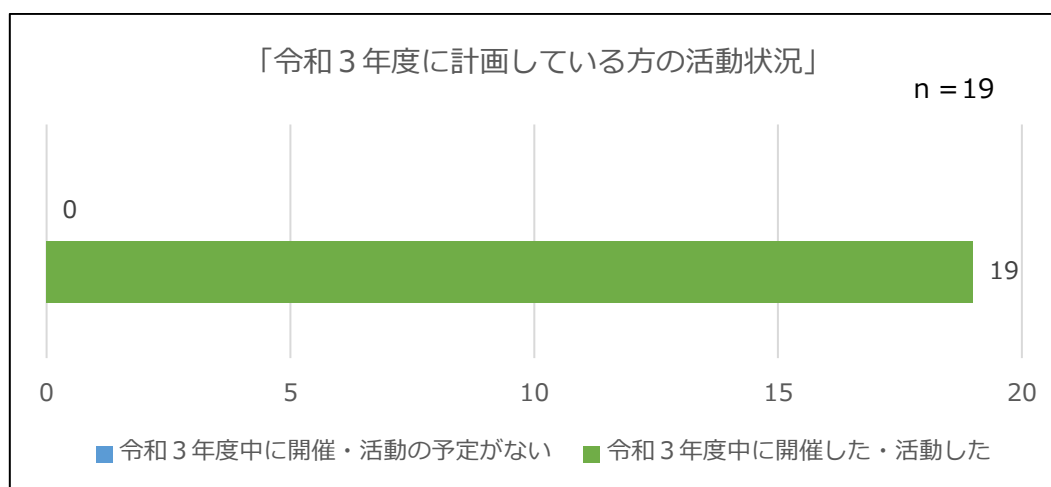
回答者 35 人のうち、「令和2年3月に開催した・活動した」が 5.7%（2 人）、「令和3年度に計画している」が 54.3%（19 人）、「令和3年度に計画していない」が 40.0%（14 人）だった。

図表 1



「令和3年度に計画している」と回答された方 19 人のうち、「令和3年度中に開催した・活動した（予定を含む）」が（100%）19 人で、「令和3年度中に開催・活動の予定がない」は 0 人だった。

図表 2



* 「令和2年3月に開催した・活動した」「令和3年度中に開催した・活動した（予定を含む）」と回答した方は 21 人で全回答者（35 人）のうちの 60%であった。

2)「開催した・活動した」と回答した方の研修会等を開催した回数、講師として活動した回数について

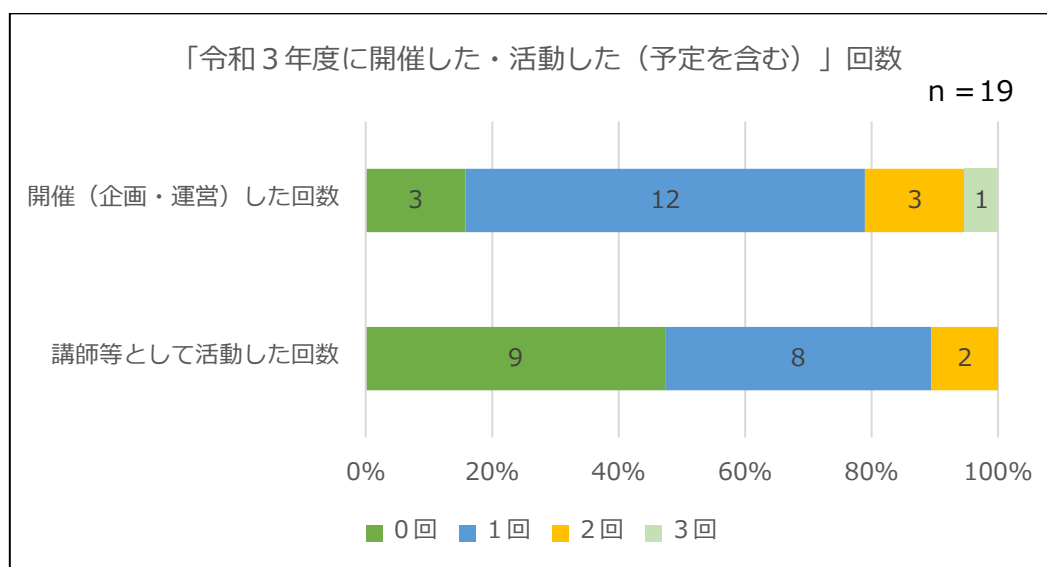
「令和2年3月に開催した・活動した」と回答した方2人のうち、「開催（企画・運営）」した回数は1回が1人、3回が1人、「講師等として活動」した回数は1回が1人、3回が1人であった。

図表3

	開催（企画・運営）された回数	講師等として活動した回数
1回	1	1
3回	1	1

「令和3年度中に開催した・活動した（予定を含む）」と回答した方19人のうち、「開催（企画・運営）した回数」は0回が15.8%（3人）、1回が63.2%（12人）、2回が15.8%（3人）、3回が5.3%（1人）であった。
「講師等として活動した回数」は0回が47.4%（9人）、1回が42.1%（8人）、2回が10.8%（2人）、3回は0人であった。

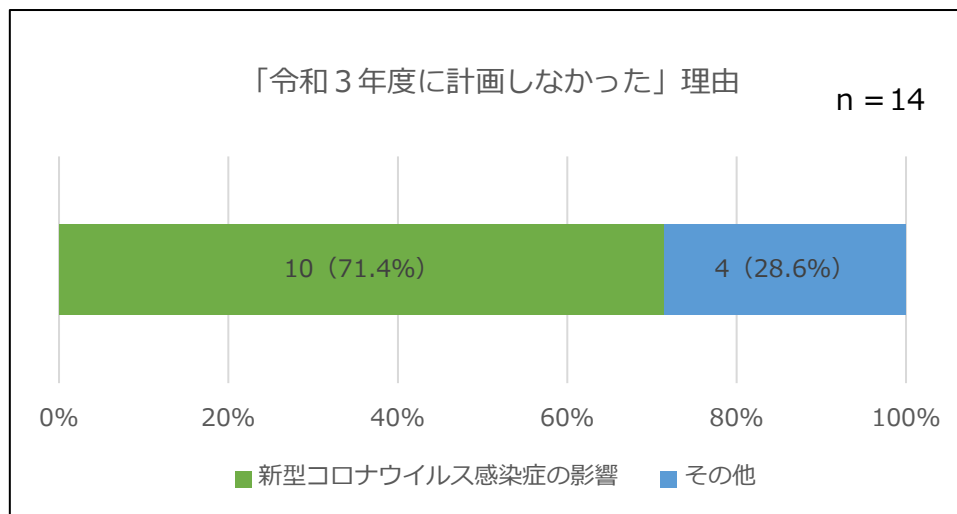
図表4



3)「令和3年度に計画していない」と回答した方の理由

「令和3年度に計画していない」と回答された方14人のうち、「新型コロナウイルス感染症の流行の影響」が71.4%（10人）、その他の理由が28.6%（4人）であった。

図表5



具体的な理由

新型コロナウイルス感染症の影響により、開催・活動しなかった具体的な理由
計画していたが、感染対策等に追われ、具体的に詰めることができなかった
コロナの影響で研修会がなくなった。
集まるのが難しいことから、開催できていない。
法人より研修会開催など禁止されていた。Web等の活用も試みたがコロナ感染症や事業所が多忙になりそこまで到達点が目指せなかった。
活動する予定にはなっていたが、計画を立てる前でストップとなっている。
令和2年度に計画していたが感染拡大により中止となった。
地域での会議のほとんどが中止、延期、中にはzoom対応となる中で計画がしづらかったが、今後検討していきたい。
訪問看護ステーションとして、地域の陽性者訪問のお手伝いや介護職に対する感染感染予防の研修などに忙殺されてしまい、開催および活動を行う余裕がなかった。
会場参加の研修を企画しており、オンラインにすることが困難な研修だったため
集合研修開催はできず、zoom開催等是不慣れなこともありできていない。

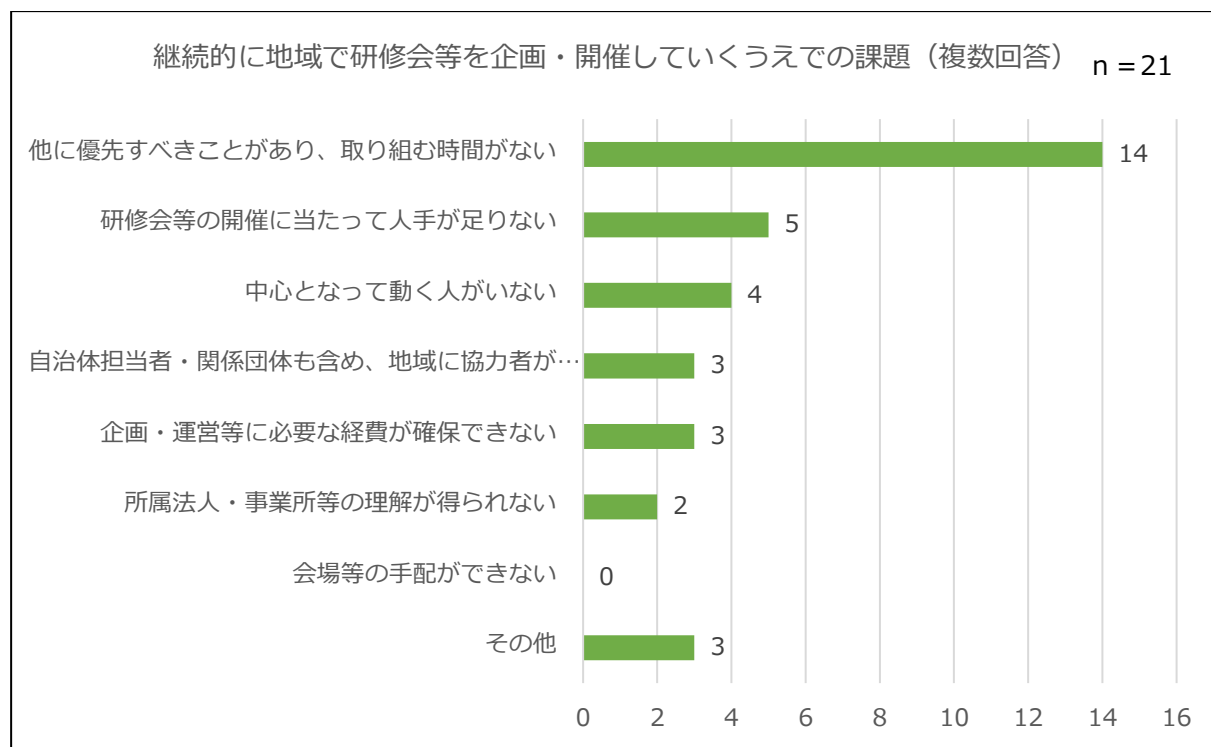
その他の場合の具体的な理由
自社の業務多忙のため
機会がなかった。
令和3年度の具体的な研修内容について相談する機会がないため。
どういった活動を行えばよいかわからなかった。

4)「令和2年3月に開催した・活動した」「令和3年度に計画している」と回答した方

今後、継続的に地域で研修会等を企画・開催していくうえで、どのようなことが課題と感じているか。

「他に優先すべきことがあり、取り組む時間がない」が66.7%（14人）、「研修会等の開催に当たって人手が足りない」が23.8%（5人）、「中心となって動く人がいない」が19.0%（4人）、「自治体担当者・関係団体も含め、地域に協力者がいない」「企画・運営等に必要な経費が確保できない」「その他」がそれぞれ14.3%（3人）、「所属法人・事業所等の理解が得られない」が9.5%（2人）だった。

図表 6

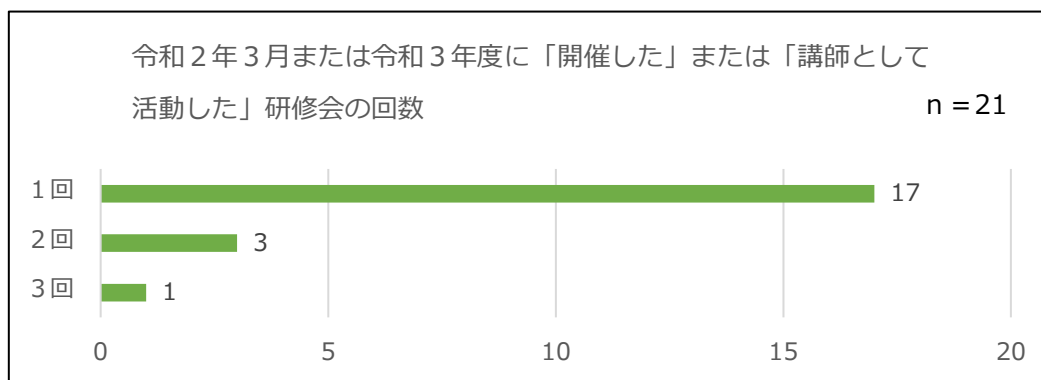


Ⅲ「研修会を開催した」「講師として活動した」と回答した人の研修会の詳細について

1.開催した研修会の回数

「開催した」または「講師として活動した」と回答した 21 人のうち、令和 2 年 3 月または令和 3 年度に「開催した」または「講師として活動した」研修会の回数は、1 回が 81.0%（17 人）、2 回が 14.3%（3 人）、3 回が 4.8%（1 人）だった。

図表 7



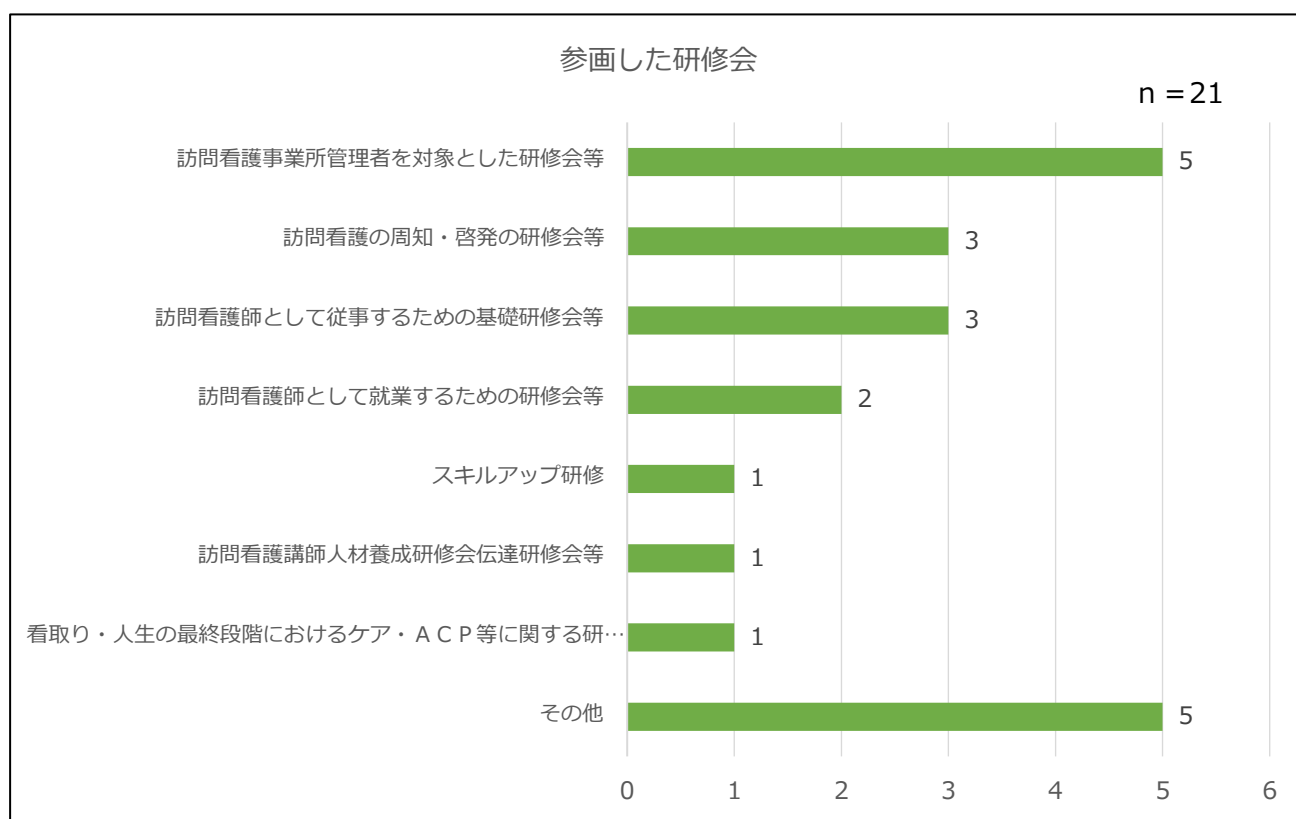
2. 参画した研修会の詳細

参画した研修会の詳細について 21 人より以下の回答を得た

① 参画した研修会

「訪問看護事業所管理者を対象とした研修会等」が 23.8%（5 人）と最も多く、次いで「訪問看護の周知・啓発の研修会等」「訪問看護師として従事するための基礎研修会等」が 14.3%（3 人）、「訪問看護師として就業するための研修会等」が 9.5%（2 人）、「スキルアップ研修」「訪問看護講師人材養成研修会伝達研修会等」「看取り・人生の最終段階におけるケア・ACP 等に関する研修会等」がそれぞれ 4.8%（1 人）、その他が 23.8%（5 人）であった。

図表 8

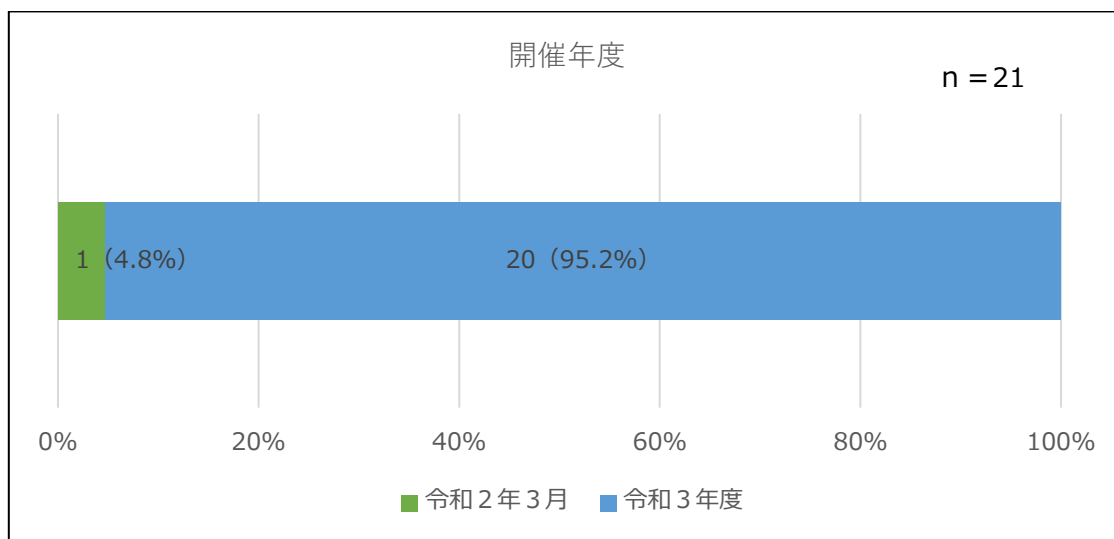


その他内容
ACP と多職種との連携について
訪問看護師の人材確保、離職防止のための研修会
訪問看護経験の短いスタッフのやりがいを持ってもらう交流会
訪問看護連絡協議会総会の記念講演
訪問看護の実際についての講話（授業の一環）

②開催年度

「令和 2 年 3 月」開催が 4.8%（1 人）、令和 3 年度開催が 95.2%（20 人）だった。

図表 9



③研修会のタイトル

図表 10

訪問看護の周知・啓発関連
訪問看護の魅力
離職しない・訪問看護の新たな魅力を見つけよう
訪問看護師の定着を目指して ～新任看護師の教育について各地域のステーションで共に考えよう～
訪問看護ステーションにおける看護活動の実際
訪問看護師による訪問看護等理解促進事業セミナー・相談会
訪問看護入門セミナー
訪問看護師養成講習
スキルアップ関連
OJT 管理者研修
コミュニケーションツールとしての OJT ガイドブック
訪問看護管理者研修
訪問看護実践力アップ研修
看取り関連
望む生活を支える意思決定支援
「みんなで支える在宅看取り」 ～自宅で最期を迎えるということ～
感染・防災関連
新型コロナウイルス感染対策
その他
知っておきたい在宅における薬剤のノウハウ～副作用と雑学～
アンガーマネージメント

④具体的な内容（自由記載）

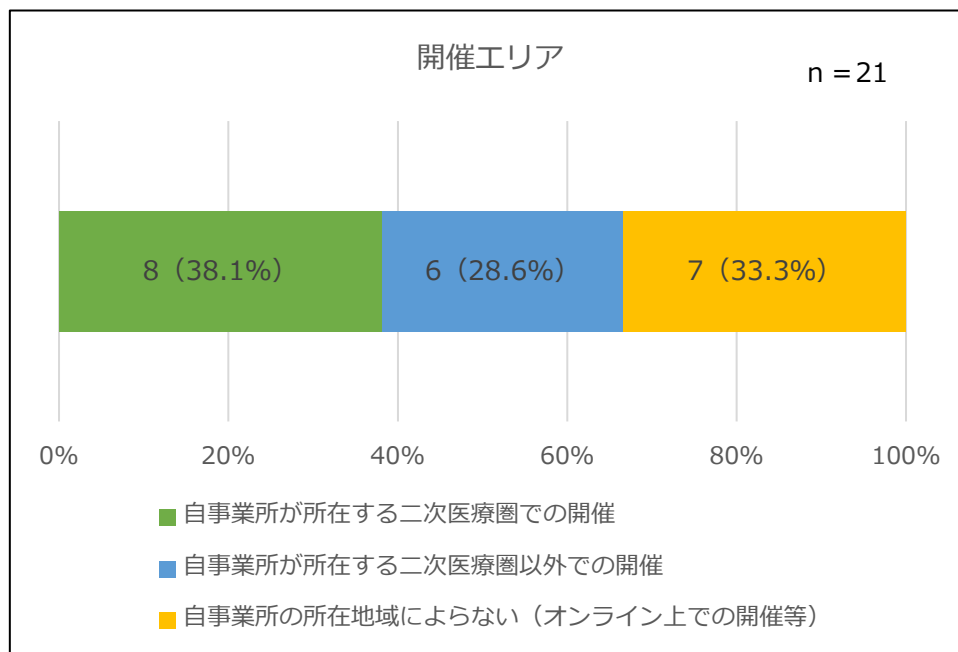
図表 11

訪問看護の周知・啓発関連
・ワークショップ形式で 1～3 年目の看護師を対象にグループ分けし、4 年目の先輩看護師を 1 名、ファシリテーターに管理者を配置。グループごとに訪問看護実践での悩み、困っていることを共有、先輩看護師の経験やアドバイスをもとに解決策等を話し合う。不安解消のための問題解決策・方法・サポート体制等ファシリテーターがサポートする。訪問看護実践での悩み、困っていることを共有するなかで、新たな魅力ややりがいに気づき、訪問看護実践における不安要素を減らし、意欲を高めることができる。前後で気持ちの変化についてアンケートを実施する。
・新任訪問看護師の教育について考えよう ～次の世代を担う訪問看護師が続けられる職場とは魅力ややりがい、学びの場となる工夫とは～ 各地域のメリット、デメリットをまとめ、看護師の教育や定着のために行われている対策や、やってみたい対策について意見を出し合い、今後はどう活かしていくかまとめる。
・看護学生に向けて、訪問看護の実際や訪問看護の魅力を、画像や動画を用いて対面形式で伝える。
スキルアップ関連
・OJT ガイドブックを、スタッフ教育、管理者教育および相互のコミュニケーションに活用する方法を、実際の教育活動や経験などから具体的に教示。
看取り関連
・ACP に関する研修の続編で、事例を通し様々な職種と終末期にあるケースへの関わりについてカンファレンスを実施した。
・地域の往診医に「在宅ホスピス」～がん末期を自宅で過ごすということ～のテーマで講演していただき その後、多職種でグループディスカッションをし、学びを深めた。
感染・防災関連
・BCP について
その他
・救急救命、フィジカルアセスメント、在宅輸液管理
・1.保健医療福祉をめぐる社会背景と訪問看護のニーズ 2.地域保健医療福祉活動（サービス）における訪問看護の位置づけ 3.地域における訪問看護活動の現状と展望
1. 在宅でよく使われる薬の注意点 2. 在宅管理指導料について 3. 特定医療材料費の算定について
・市の保健師と訪問看護ステーション連絡会に所属する管理者が、teams を用いて感染症に対する対策の助言を受けた。その企画運営を行った。
・管理者が自身の精神面をコントロールできれば、スタッフと十分なコミュニケーションが図れ、働きやすい職場作りができ、離職者が無くなるのではないかな。

⑤開催エリア

「自事業所が所在する二次医療圏での開催」が 38.1%（8 人）、次に「自事業所の所在地域によらない（オンライン上での開催等）」が 33.3%（7 人）、「自事業所が所在する二次医療圏以外での開催」が 28.6%（6 人）であった。

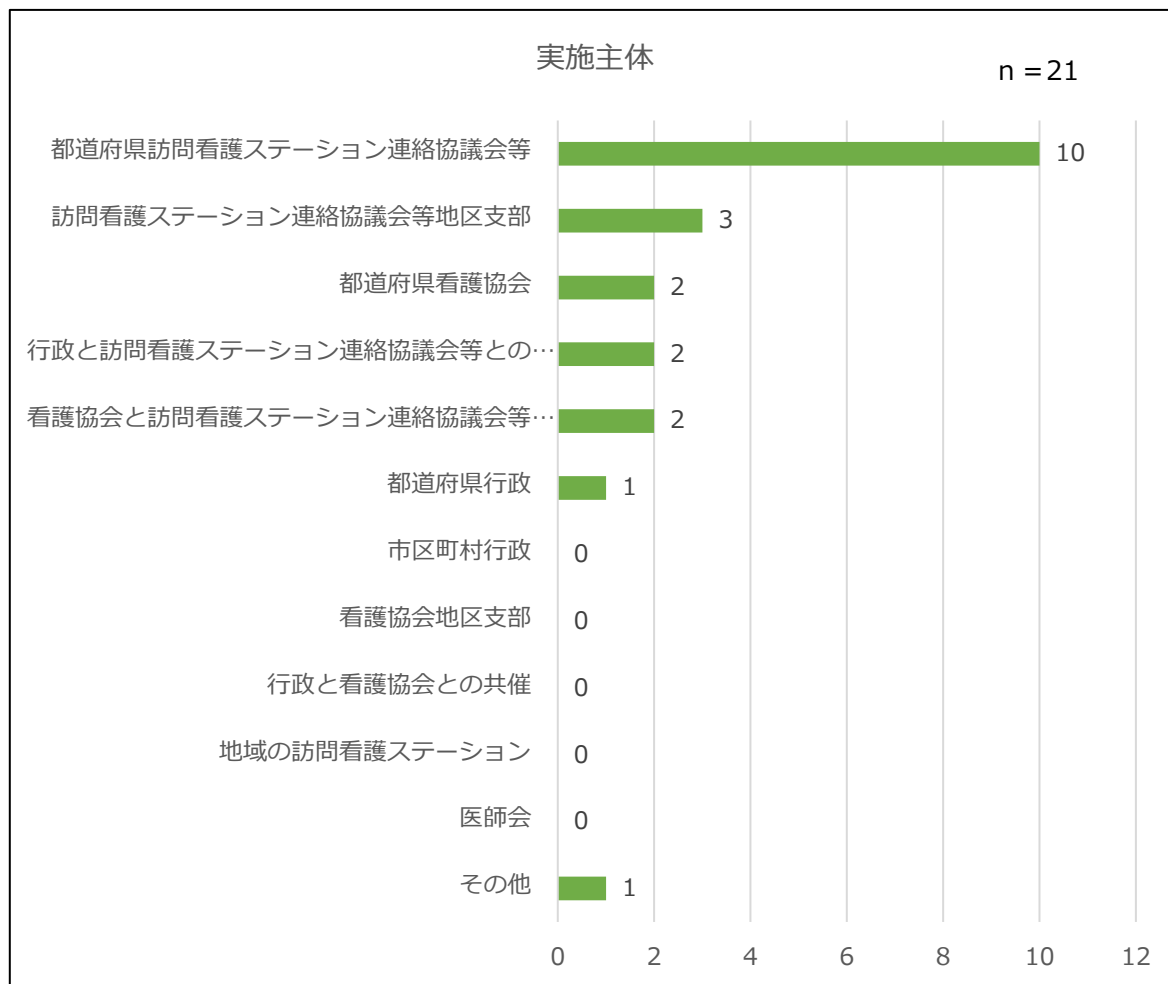
図表 12



⑥実施主体（1つ選択）

「都道府県訪問看護ステーション連絡協議会等」が 47.6%（10 人）で最も多く、次いで「訪問看護ステーション連絡協議会等地区支部」が 14.3%（3 人）、「都道府県看護協会」「行政と訪問看護ステーション連絡協議会等との共催」「看護協会と訪問看護ステーション連絡協議会等との共催」がそれぞれ 9.5%（2 人）、「都道府県行政」「その他」がそれぞれ 4.8%（1 人）であった。

図表 13

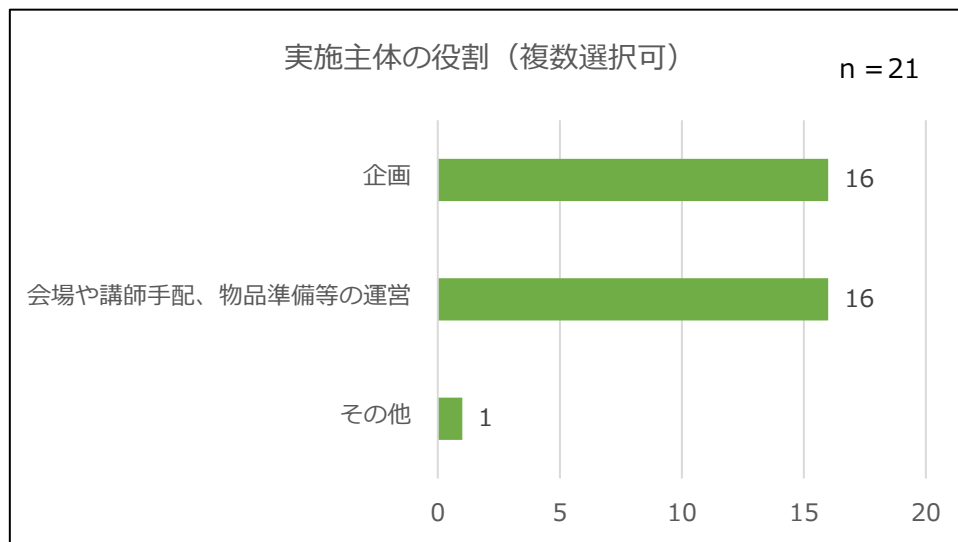


「その他」内訳・・・学校

⑦実施主体が担った役割（複数回答可）

「企画」「会場や講師手配、物品準備等の運営」がそれぞれ 76.2%（16 人）であった。「その他」 4.8%（1 人）で、「Teams による招待メールの準備等」だった。

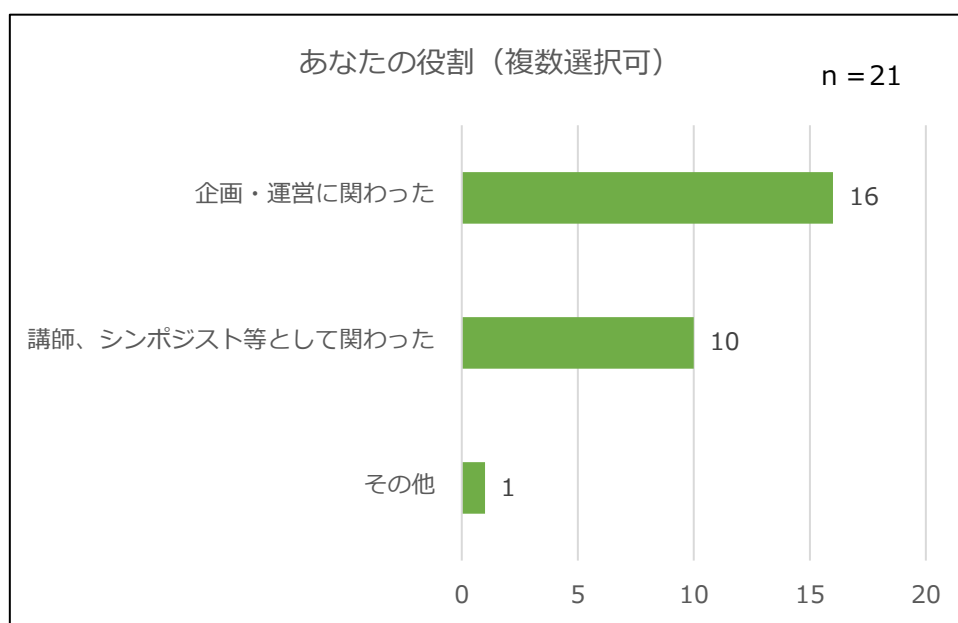
図表 14



⑧あなたが担った役割（複数回答可）

「企画・運営に関わった」が 76.2%（16 人）、「講師、シンポジスト等として関わった」 47.6%（10 人）であった。「その他」は 4.8%（1 人）で、「グループワークファシリテーター」であった。

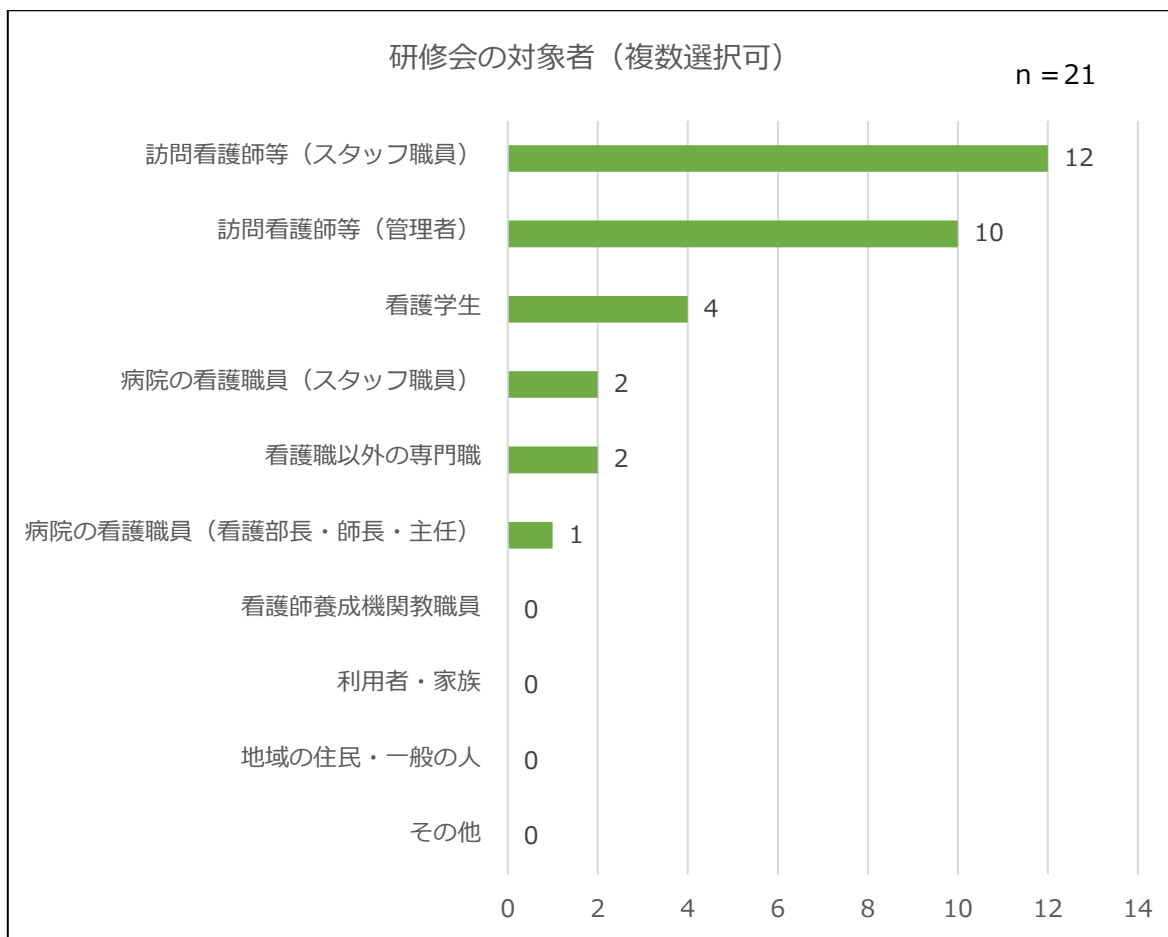
図表 15



⑨研修会の対象者（複数回答可）

「訪問看護師等（スタッフ職員）」が 57.1%（12 人）、「訪問看護師等（管理者）」47.6%（10 人）、「看護学生」が 19.0%（4 人）、「病院の看護職員（スタッフ職員）」「看護職以外の専門職」がそれぞれ 9.5%（2 人）、「病院の看護職員（看護部長・師長・主任）」4.8%（1 人）であった。

図表 16

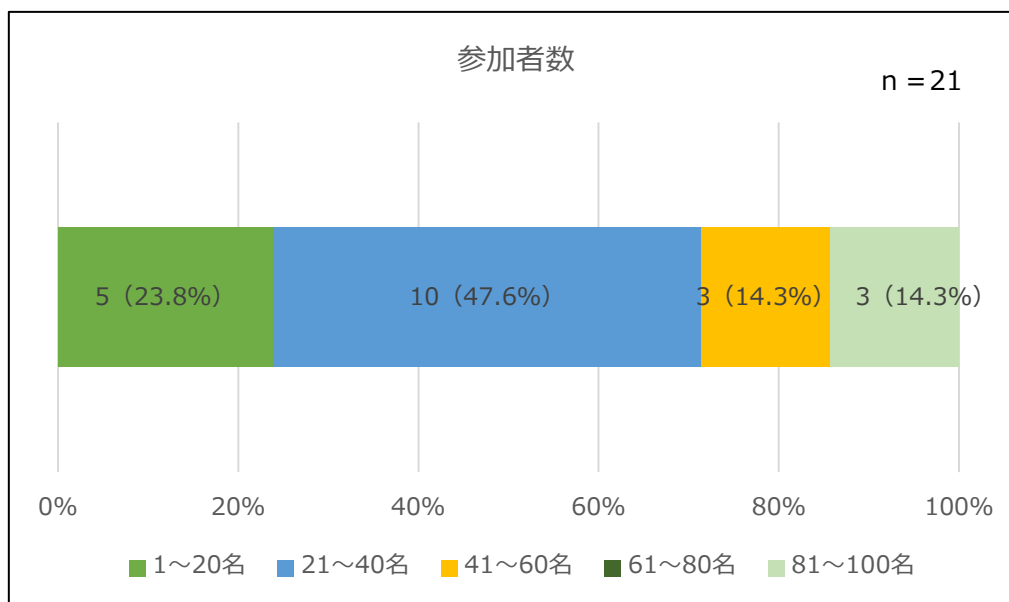


「看護職以外の専門職」の内訳は、介護職員、ケアマネジャー、薬剤師であった。

⑩参加者数

「21～40 名」が最も多く 47.6%（10 人）、「1～20 名」が 23.8%（5 人）、「41～60 名」「81～100 名」がそれぞれ 14.3%（3 人）であった。

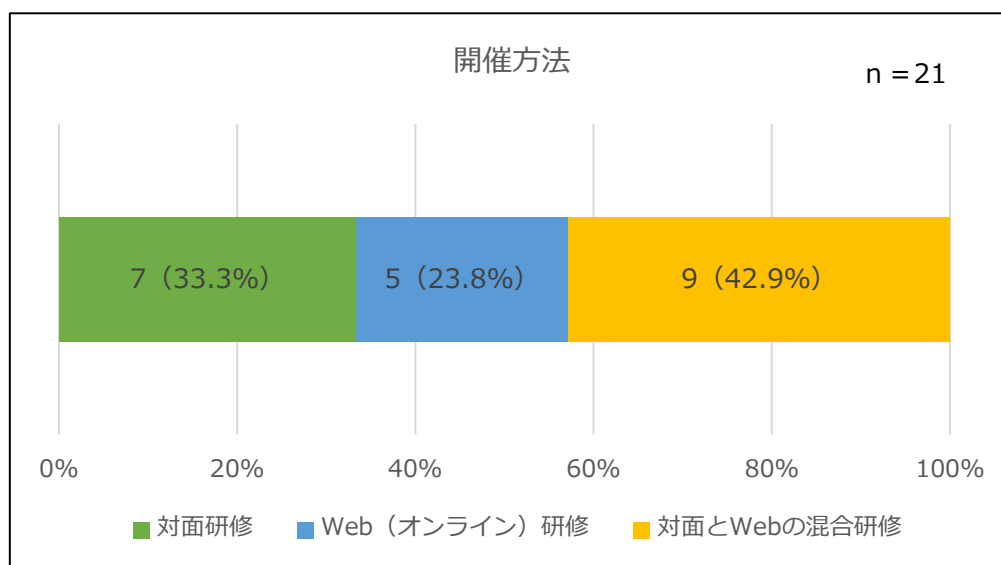
図表 17



⑪開催方法

「対面と Web の混合研修」が 42.9%（9 人）で最も多く、次いで「対面研修」33.3%（7 人）、「Web 研修」が 23.8%（5 人）であった。

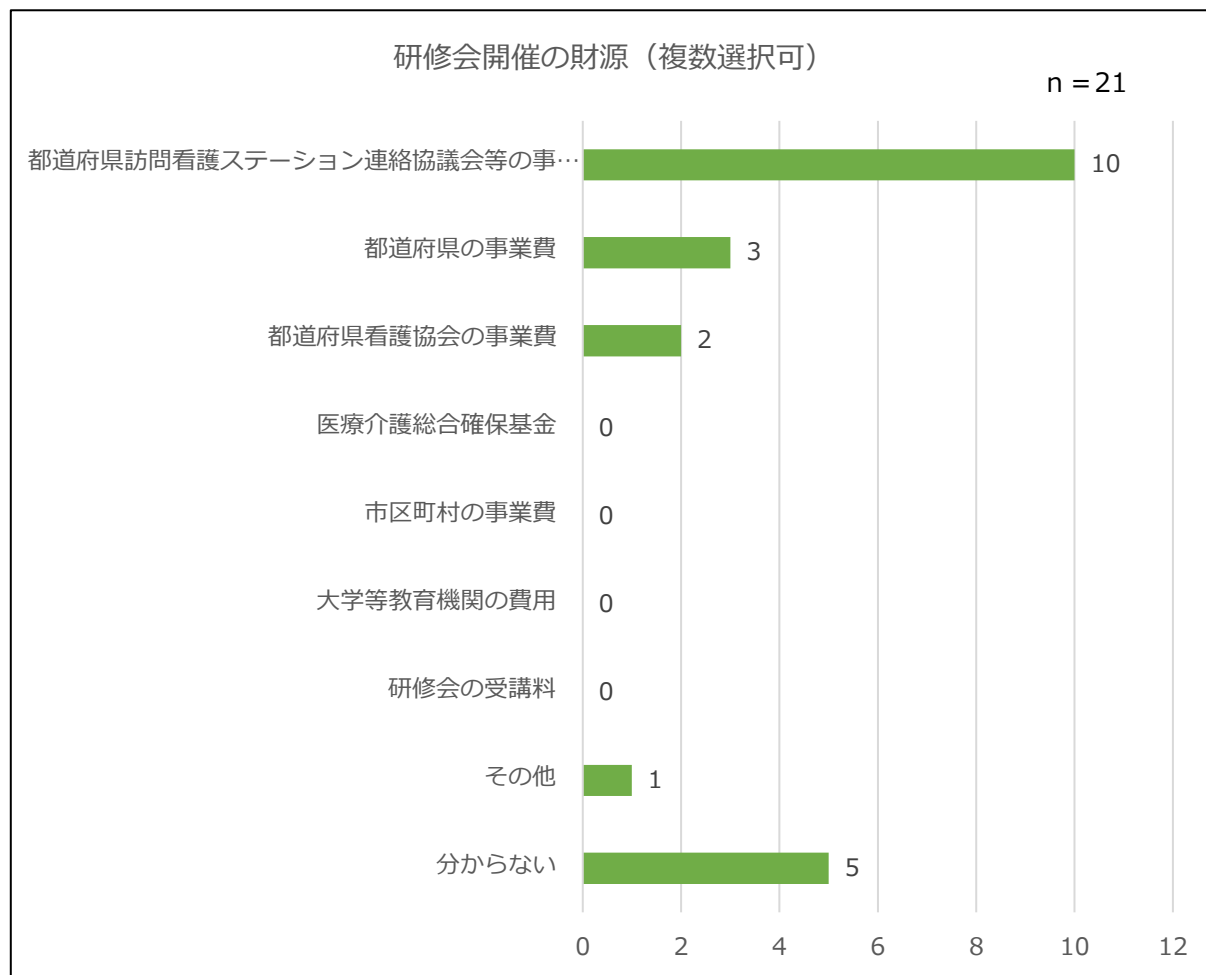
図表 18



⑫研修会開催の財源（複数回答可）

「都道府県訪問看護ステーション連絡協議会等の事業費」が 47.6%（10 人）と最も多く、次いで「都道府県の事業費」が 14.3%（3 人）、「都道府県看護協会の事業費」が 9.5%（2 人）、「その他」が 4.8%（1 人）であった。また、「分からない」と回答したものが 23.8%（5 人）あった。

図表 19



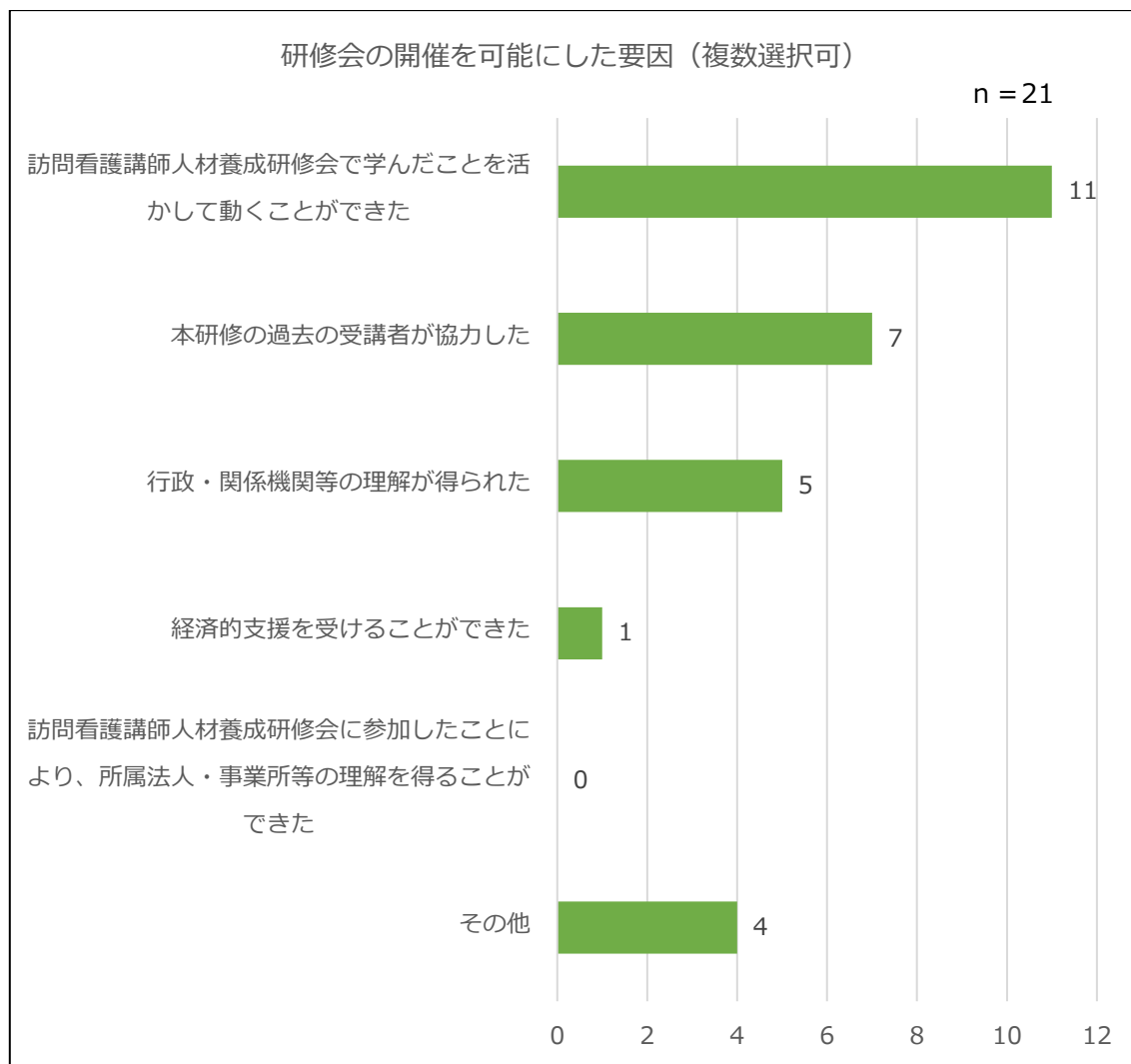
「都道府県の事業費」内訳：訪問看護等理解促進事業、保健所、京都府地域包括ケア推進団体等
交付金事業

「その他」内訳：teams はステーションのものを活用

⑬研修会の開催を可能にした要因（複数回答可）

「訪問看護講師人材養成研修会で学んだことを活かして動くことができた」が 52.4%（11 人）と最も多く、次いで「本研修の過去の受講者が協力した」33.3%（7 人）、「行政・関係機関等の理解が得られた」が 23.8%（5 人）、「経済的支援を受けることができた」が 4.8%（1 人）、「その他」が 19.0%（4 人）の順であった。

図表 20



「その他」の内訳

「連絡協議会の助言、誘導があった」「学校担当者の協力を得られた」「訪問看護ステーション協議会や地区の訪問看護ステーション管理者の協力があった。」「訪問看護ステーション連絡協議会で実施について検討していた」

研修会の開催を可能にした各要因の内容（自由記載、一部抜粋）

■訪問看護講師人材養成研修会で学んだことを活かして動くことができた
・ 県内の訪問看護の現状把握、訪問看護師の持つ課題を分析し課題解決に向けて活動していくことの重要性を再確認し活動することができた。
・ 学びを基に自地域の課題を抽出し明確になった課題に対しての研修企画であったため、スムーズに準備を進めることができ開催に繋げることができた。
・ 研修会で学び、グループワークで自分のいる地域の問題を抽出し、それを解消するにはどうしたらいいかということになった。そこで、企画した研修を実践した。
・ 講師との打ち合わせの際に、現状と課題を示し、講義内容の希望・要望などを伝え、講師と共に検討することができた。
・ 地域で求められている訪問看護師像を理解したうえで、研修内容に反映することができた。
・ 人材育成の視点やグループワークにおけるファシリテーターの役割については研修前に再度、講義内容を見返して意識してのぞめた。
・ 研修企画について学んだことや経験を活かすことができた。
・ 研修会のグループで検討し発表したものを、実際に管理者会議で発表できたため。
・ 情勢やデータなどは、講義の内容から得られた。
■本研修の過去の受講者が協力した
・ 一緒に企画運営に携わってくれた。
・ グループワーク時のファシリテーターとして協力してもらった。
・ 前年度の受講者がオブザーバーとして入り、意見をくれた。
・ ファシリテーターとして研修に参加後も、講師の選任や調整等の相談にのってくれた。
・ 研修委員の中に受講生が他にも3人いた。訪問看護師の養成に関わる研修の趣旨や意義などを理解しながら協力してできたことは大きいと思う。
■行政・関係機関等の理解が得られた
・ 同じ時期に保健所の保健師が本研修を受講していたため。
・ 県看護協会の協力の元に、訪問看護推進協議委員会などの意見を組み込んで、訪問看護師の育成や事業運営についての必要な研修などを計画してもらえた。また、会場や必要な準備についても全面的に行ってもらえた。
・ コロナ禍での研修実行は看護協会のバックアップがなければ実現は困難だったと思われる。また自分たちだけでなく研修内容に応じた講師の選定や研修準備なども自分たちだけでは困難だった。
・ 行政保健師からの指導を無償で受けることができた。
■経済的支援を受けることができた
なし

■訪問看護人材養成研修会に参加したことにより、所属法人・事業所等の理解を得ることができた
なし
■その他
なし

⑭研修会の企画・開催についての工夫（自由記載、一部抜粋）

新型コロナウイルス感染症対策関連の工夫
・ Web での開催でも、実技を見てもらえるよう工夫した。
・ コロナ禍だったため、Web 研修で行った。
・ Web 研修に慣れていない方のために、Web についての手順書を作成。それでも Web 研修が難しい方には各支部で対応してもらい、一部は支部会場に集まってもらった。
・ Web 開催の時は、参加者の交流が難しいため、少しでも情報共有や意見交換ができるようにグループワークを Web 上で開催した。
・ 企画中は、緊急事態宣言下のため、企画会議はすべてオンラインで行った。地域のステーションの連絡体制を整え、メーリングリストを作成しなおした。
・ オンラインが主であったが最終は対面研修だったので、グループワークを通して参加者のディスカッションが活発になるように、またグループ内の意見を少しでも発表し共有できるように内容と時間配分を意識した。
それ以外の工夫
・ 受講者の興味を引くような動画や座談会のような内容にした。
・ 多職種間で意見交換できるようにグループ分けをおこなった。
・ 悩みや不安を表出しやすいよう同ステーションから複数参加の場合はグループが一緒にならないようにし、ファシリテーターの配置にも配慮した。地区ステーションでの参加者確保のため事前に管理者へアンケートを実施、開催日時調整を行った。
・ 実践に即した内容が、受講者も関心が持てるため講師に依頼した。受講者のレディネスにばらつきがあると、限られた時間の中で具体的内容を深めることが難しい。講演会という形態を踏まえ、一般的な概念的な内容となった。
・ 講師人材養成研修会で学びを得たように、訪問看護で従事する看護師が増えるように、新任研修に携わることで、その意図を組むことができた内容になった。
・ 制度や役割など病院とは異なる点について、地域包括ケアの話も踏まえて話をするよう心掛けた。
・ 訪問看護師だけでなく多職種が参加したいと思えるように、身近な地域の医師に多職種が知りたいと思っている内容を含め、訪問看護師の役割を再認識できるような講演にもらった。グループディスカッションはあらかじめファシリテーターを決めておき、グループ内で司会や記録をせずディスカッションに集中してもらえるよう準備をした。
・ 訪問看護ステーション連絡会の管理者研修日に、行政保健師から話を聞く機会を持ちたいと、事前に連絡を入れて、助言が受けられるように前打ち合わせを行った。
・ 自地域の現状（高齢化率）等も含め、訪問看護に興味を持っていただけるような内容にした。

⑮研修会の企画・開催しての課題（自由記載、一部抜粋）

Web 関連
・当初予定した Web でのグループワーク分けが、不具合でできなくなり、各支部で集まって研修を受けていた方々がいたので、急遽グループ変更をし、各支部に集まってくれていた箇所でグループを作り、Web 参加されていた方達は全員でグループワークする事になってしまった。各グループのファシリテーターも参加できず、時間もなく、まとめまでスムーズに進行できなかった。
・Web と対面での研修だったため、設定に手間取った。今後、Web 研修を活用できるよう、Web 関連の手技や知識を必要とすると感じた。
・ZOOM 配信による研修会で、受講者の反応に添いながら研修を進めることが難しかった。また、研修の意図として新任看護師の横のつながりを持たせるための工夫が足りなかった。
・今年はオンラインが主だったので、やはり受講生は受け身となりやすく、またグループに分かれてもすぐには意見交換ができにくい場面を何度か実感した。限られた時間の中でいかに主体的に取り組んでもらえる内容にするかが継続課題。
・ZOOM 研修に慣れていない職種もあり、事前に ZOOM 研修の注意点等を周知徹底しておく必要があった。
その他
・開催の日時・対象者がなかなか決められず、大まかな内容から具体化させるまでに時間がかかった。所属法人の理解が乏しく、プライベートな時間を使っただけの活動しかできなかった。
・随時、県内における課題を調査し、企画開催していくための時間確保が、通常勤務を行いながらでは難しいと感じた。
・ACP の周知が不十分なため、今後、福祉・医療従事者はもちろん一般の方を対象に研修の機会を持つことが必要と感じた。
・今回の参加者のアンケートから、不安や、悩みの解決に繋がり、モチベーションの向上に繋がる良い結果となったが、地区ステーションの対象者が全員参加できているわけではないので、開催時期や、回数等も今後の検討課題となる。
・対面研修であったため、WEB 研修と両方で開催したほうが出席しやすかった。
・興味・関心を抱いた学生はいたが、実際新卒で就職するには、教育体制が整っていないため現場としては厳しい。
・講義をしていて、訪問看護に興味のある学生、ない学生ははっきりと分かった。興味のない学生にも興味を持たせるように実習で指導できたらよいかと思う。
・今回は連絡協議会の支援があったからできたことだと思うので、自事業所圏での開催となると開催場所や他事業所との連携等々、課題が多くある。
・人前で講義をすることがほぼ初めてだったため、時間配分がつかめず予定の 2 時間半よりも早く終了してしまった。

(令和2年度在宅医療関連講師人材養成事業 訪問看護分野)

「令和2年度訪問看護講師人材養成研修会」
受講後活動についての追跡調査 ご協力をお願い

令和2年度受講者用
～看護師～

日頃より、訪問看護の推進につきまして格別のご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

過日は、標記研修会にご参加頂きありがとうございました。

本研修会は、地域における訪問看護の講師人材の育成支援を趣旨としており、研修を修了されました受講者を対象に研修プログラムの評価として、受講後の地域での活動に関する調査を令和3年2月に実施いたしました。その回答において、「計画したが開催しなかった」若しくは「開催・活動しなかった」とご回答の方々に、その後の活動状況について、追跡調査を行います。ご多用中大変恐縮ですが、全ての受講者にご回答をいただきたくお願い申し上げます。

なお、本調査の結果については、厚生労働省の会議等に提示させていただき、他、都道府県、都道府県看護協会や都道府県訪問看護ステーション連絡協議会等が受講者の皆様のお力を活用いただく際の参考となるよう、公表を予定しています。また、講師等としての活動事例については、とりまとめるにあたって、個別にお問い合わせをさせていただく場合がありますことを申し添えます。

何卒ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

締め切り：令和3年12月17日（金）

令和3年11月15日
一般社団法人全国訪問看護事業協会

I. 基本情報についてお伺いたします。

1) 都道府県名	
2) ご所属	
3) お名前	

II. 「訪問看護講師人材養成研修会」受講後の地域での活躍について

1. 訪問看護人材の確保や訪問看護の推進・普及に関する研修会等の開催についてお伺いします。

1) 令和2年度アンケート調査後（令和3年2月以降）の状況について、ご回答ください。

研修受講後、訪問看護人材確保や訪問看護の推進・普及に関する研修会等（技術研修・講演会など）の開催または計画をしたり、講師として活動しましたか。

☐ 令和2年3月に開催した・活動した⇒2)へ

☐ 令和3年度に計画している・・・☐令和3年度中に開催した・活動した（予定を含む）⇒2)へ

☐令和3年度中に開催・活動の予定がない⇒3)、4)のみ

☐ 令和3年度に計画していない⇒3)のみ

2) 「開催した・活動した」方は研修会等を開催した回数・講師等として活動した回数をご記載ください。

☐にチェックを入れてください。

		開催（企画・運営）	講 師
開催した・活動した （予定を含む）	令和2年度実施	回	回
	令和3年度実施	回	回

⇒回答後、4)へお進みください

3) 1)で「令和3年度中に開催・活動の予定がない」「令和3年度に計画していない」と回答された方に伺います。

新型コロナウイルス感染症の流行による影響の場合は①に、その他の場合は②に、具体的な理由をお答えください。

①新型コロナウイルス感染症の流行の影響により、開催・活動しなかった場合
②その他の場合

4) 1) で「令和2年3月に開催した・活動した」、「令和3年度に計画している」と回答した方に伺います。

今後、継続的に地域で研修会等を企画・開催していくうえで、どのようなことが課題と感じていますか（複数選択可）。

☐ 中心となって動く人がいない ☐ 自治体担当者・関係団体も含め、地域に協力者がいない ☐ 所属法人・事業所等の理解が得られない ☐ 研修会等の開催に当たって人手が足りない ☐ 会場等の手配ができない ☐ 企画・運営等に必要な経費が確保できない ☐ 他に優先すべきことがあり、取り組む時間がない ☐ その他（具体的に _____）

◆「研修会を開催した」「講師として活動した」と回答した方に、開催・活動した研修会の詳細についてお伺い
します。

開催した研修会、講師として活動した研修会が複数回ある場合は、すべての研修会についてそれぞれご回答ください。

なお、実践事例についてお問合せをさせていただく場合がございます。

○「開催した」または「講師として活動した」研修会の回数を教えてください。

☐ 4回以上

研修会の詳細 1 件目（令和 2 年 3 月～令和 3 年度）

① 参画した研修会	☐ 訪問看護の周知・啓発の研修会等 ☐ 訪問看護事業所管理者を対象とした研修会等 ☐ スキルアップ研修（例：フィジカルアセスメント）等 ☐ 訪問看護講師人材養成研修会伝達研修会等 ☐ 訪問看護師として従事するための基礎研修会等 ☐ 看取り・人生の最終段階におけるケア・ACP（人生会議）等に関する研修会等 ☐ 訪問看護師として就業するための研修会等 ☐ その他 （ ）
② 開催年度	☐ 令和２年３月 ☐ 令和３年度
③ 研修会のタイトル	
④ 具体的な内容について ご記入ください （自由記載）	
⑤ 開催エリア	☐ 自事業所が所在する二次医療圏での開催 ☐ 自事業所が所在する二次医療圏以外での開催 ☐ 自事業所の所在地域によらない（オンライン上での開催等）
⑥ 実施主体 （１つ選択）	☐ 1. 都道府県行政 ☐ 2. 市区町村行政 ☐ 3. 都道府県看護協会 ☐ 4. 看護協会地区支部 ☐ 5. 都道府県訪問看護ステーション連絡協議会 ☐ 6. 訪問看護ステーション連絡協議会地区支部 ☐ 7. 行政と看護協会との共催 ☐ 8. 行政と訪問看護ステーション連絡協議会との共催 ☐ 9. 看護協会と訪問看護ステーション連絡協議会との共催 ☐ 10. 地域の訪問看護ステーション ☐ 11. 医師会 ☐ 12. その他（具体的に： ）

⑦ 実施主体はどのような役割を担いましたか (複数回答可)	☐ 企画 ☐ 会場や講師手配、物品準備等の運営 ☐ その他 (具体的に：)	
⑧ 開催にあたり、あなたはどのような役割を担いましたか (複数回答可)	☐ 企画・運営に関わった ☐ 講師、シンポジスト等として関わった ☐ その他 (具体的に：)	
⑨ 対象者 (複数回答可)	☐ 訪問看護師等 (☐ 管理者 ☐ スタッフ職員) ☐ 病院の看護職員 (☐ 看護部長・師長・主任 ☐ スタッフ職員) ☐ 看護職以外の専門職 (職種：) ☐ 看護学生 ☐ 看護師養成機関教職員 ☐ 利用者・家族 ☐ 地域住民・一般の人 ☐ その他 ()	
⑩ 参加者数 (1 つ選択)	☐ 1～20 名 ☐ 21～40 名 ☐ 41～60 名 ☐ 61～80 名 ☐ 81～100 名 ☐ 101 名～150 名 ☐ 151 名以上	
⑪ 開催方法	☐ 対面研修 ☐ Web (オンライン) 研修 ☐ 対面と Web の混合研修	
⑫ 研修会開催の財源 (複数回答可)	☐ 1. 医療介護総合確保基金 ☐ 2. 都道府県の事業費 (事業名) ☐ 3. 市区町村の事業費 (事業名) ☐ 4. 都道府県看護協会の事業費 ☐ 5. 都道府県訪問看護ステーション連絡協議会の事業費 ☐ 6. 大学等教育機関の費用 ☐ 7. 研修会の受講料 ☐ 8. その他 (具体的に：) ☐ 9. 分からない	
⑬ 研修会の開催を可能にした要因について (複数回答可)	要 因	具体的な内容 (自由記載)
	☐ 行政・関係機関等の理解が得られた	
	☐ 経済的支援を受けることができた	
	☐ 本研修の過去の受講者が協力した	
	☐ 訪問看護講師人材養成研修会で学んだことを活かして動くことができた	
	☐ 訪問看護人材養成研修会に参加したことにより、所属法人・事業所等の理解を得ることができた	

	☐ その他	
⑭ 研修会の企画・開催において、どのような工夫をしましたか。	工夫した点（自由記載）	
⑮ 研修会の企画・開催して、どのような課題がありましたか。	課題があった点（自由記載）	

☆ 質問は以上です。ご協力いただきまして、誠にありがとうございました ☆

